

2021年5月10日  
ENEOS株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
ウーブン・プラネット・ホールディングス株式会社

## ENEOSとトヨタ、Woven City における 水素エネルギー利活用の具体的な検討を開始

-「ヒト中心」の街 Woven City でカーボンニュートラル実現を目指す-



ENEOS株式会社(以下、ENEOS)とトヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)は、静岡県裾野市にてトヨタが建設を進める Woven City(ウーブン・シティ)での水素エネルギー利活用について具体的な検討を進めることに基本合意しました。両社は、トヨタの子会社でソフトウェアを中心とした様々なモビリティの開発を担うウーブン・プラネット・ホールディングス株式会社(以下、ウーブン・プラネット)とともに、水素を「つくる」「運ぶ」「使う」という一連のサプライチェーンに関する実証を Woven City およびその近隣で行い、日本や世界の多くの国が宣言する 2050 年までのカーボンニュートラル実現への貢献を目指します。

ENEOSは、四大都市圏において商用水素ステーションを 45 カ所展開する、水素事業のリーディングカンパニーです。また、本格的な水素の大量消費社会を見据えた CO2 フリー水素のサプライチェーン構築や水素製造に関する技術開発にも取り組んでおり、エネルギーの低炭素化を推進しています。トヨタは、水素を将来の有力なクリーンエネルギーと位置付けており、乗用車から商用車、産業車両、鉄道、船、定置式発電にいたるまで様々な用途での水素および燃料電池(以下、FC)技術の開発・普及に取り組んでいます。このような両社の水素に関する知見を活かし、様々な実証を通じて、Woven City におけるモビリティ、人の暮らし、そして街全体のカーボンニュートラルを目指し、水素を身近に感じていただきながら、豊かさと持続可能性が両立する社会の実現にチャレンジします。

両社は以下 4 項目における具体的な検討を進めてまいります。

- (1) ENEOSによる Woven City 近隣での水素ステーションの建設・運営
- (2) ENEOSが上記水素ステーションに設置した水電解装置にて再生可能エネルギー由来の水素(グリーン水素)を製造し、Woven City に供給。トヨタが定置式 FC 発電機を Woven City 内に設置し、グリーン水素を使用
- (3) Woven City およびその近隣における物流車両の FC 化の推進と FC 車両を中心とした水素需要の原単位\*の検証およびその需給管理システムの構築
- (4) Woven City の敷地内に設置予定の実証拠点における水素供給に関する先端技術研究  
なお、ウーブン・プラネットはトヨタとともに Woven City の企画を進めてまいります。

ENEOSの大田勝幸社長は、「街全体で未来の技術を実証するトヨタの構想に強く共感するとともに、Woven City プロジェクトに参画できることを大変嬉しく思います。世界規模でカーボンニュートラルに向けた動きが加速するなか、水素エネルギーはその実現の切り札として期待されています。今回、水素社会の形成をリードするトヨタと共に、ヒトと水素が共存する新しいライフスタイルの創出につながる実証を進めていく意義は極めて大きいと考えます。両社で Woven City が目指すコンセプトを世界に発信することで、エネルギーの新たな未来が拓かれることを切に願っています」と語りました。

トヨタの豊田章男社長は、「日本を代表する『総合エネルギー企業』として水素の製造から販売まで一貫して取り組まれているENEOSをコアパートナーに迎え、Woven City での水素社会実証を行えることを大変嬉しく、心強く思います。水素社会の実現に向けては、個々の技術の進化に加えて、『つくる』『運ぶ』『使う』というすべてのプロセスをつなげて取り組むことが欠かせません。今後ENEOSと一緒に、Woven City というリアルな場で『ヒト中心』に、地域とともに、水素を使った暮らしのあり方や技術を検証し、その原単位を日本全国や世界に展開できるよう、取り組んでまいります」と語りました。

Woven City は住む方一人ひとりの生活を想像しながら取り組む「ヒト中心の街」です。水素をはじめとする様々な領域の新技术をリアルな場で実証する「実証実験の街」であり、いつまでも成長し、スタートがずっと続くような「未完成の街」として、ENEOSをはじめとする想いをともにする世界中の様々な企業や研究者の方々と一緒に、幸せあふれる街づくりに取り組んでまいります。

※技術やサービスが実用性のある事業として成立する基準

以上